

平成25年度「みんなの審査会」～市民参加型事業評価～審査結果詳細

事業番号	4-②	事業名	学校図書館教育推進事業			
所管	教育委員会事務	局	学校教育	部	学校企画	課

【事業内容】					
推進校及び研究校を指定し、司書教諭を支援する人材として、推進校には「学校図書館サポーター」、研究校には「学校図書館職員」を配置し、読書センター機能と学習情報センター機能の充実を図る。					
総コスト(千円)	(平成24年度決算額)	31,163千円	(平成25年度予算額)	38,764千円	

【市民審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】

【今後の方向性】					
＜市民審査員＞			＜検討委員(参考意見)＞		
今後の方向性	事業の方向性	拡充		5	4
		現状維持		2	
		縮小	2		
		廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
公金投入の方向性			公金投入の方向性		

【今後の方向性】《事業の方向性—公金投入の方向性》を選択した理由

《拡充—現状維持》

- ・事業費の拡充と共に、デジタル社会における図書館教育のあり方も考慮していく必要があると思います。
- ・サポーターの回数を増やす案を...
- ・公金投入は現状のまま事業は拡充できる要素はたくさんあるのではないかと感じました。
- ・読書は本当に必要なことだと思います。しかし図書館へ足を入れる子は元から本へ興味があります。興味がない子に対して、授業の中に読書の時間を設ける、又は読み聞かせをする、又は自分たちで本の発表させるなど、本当に読書が大切だと考えるなもっと色々な取り組みがあると考えます
- ・図書館サポーターのレベルアップ、均等化に費用投入。
- ・司書教諭がサポーターに業務を丸投げしないよう、チェックが必要。
- ・公金の使い道が、学校図書館サポーター等の謝礼金が主になる方向に疑問を感じる。堺市の他事業も含めた人材バンクや地域のボランティア人材等を上手に活用して各校の特性、地域の特性にあわした地域人材と学校と協働型学校図書館経営を試行してほしい。
- ・費用対効果の面で、コスト低減の余地はある。

《拡充—拡大》

- ・活字はなれが問題になっている昨今、事業の効率的・効果的運用をはかってほしい。
- ・子育てについては最重要と思います。本が大好きな人に育ててほしい。人間形成に必要。
- ・一定の成果が得られていることや、生徒・サポーター相互の要望があるのでより充実したサポートができるようにすべきだと思います。
- ・教育に関わる事業は結果が出るまで時間がかかるものである、経費をつぎ込んだ分の結果が出るまでには3年はかかる。
- ・研究校続ける必要はなし。
- ・サポーターは広く民間の無資格でもいいから人格者に的をしぼってほしい。
- ・事業の重要性について意義が十分ある。今後もより積極的に進めていくべきであると思うので「方向性」はともに拡大とした。
- ・学校図書館職員配置校は、各区に最低1ヶ所程度は設けることとし、各区の図書館サポーターとの連携を図るべきではないか。
- ・サポーターの活動時間も必要に応じて増やしていくべきではないか。

【今後の方向性】

《現状維持—現状維持》

- ・世の中「図書ばなれ」の時代 たやすくは読書(30分以上読書する)子供か・・・?(努力は認めます)
- ・子供達の読書が少ない様に感じます、今はそれが気になっています。

《縮小—縮小》

- ・本当に生徒達が本を読んでいるのか? 友達が行くから行くんじゃないか? →それが OK なら拡充で OK
- ・事業内容、推進方向、評価方法の全てが推進者視線(大人)である。

【改善策について】(複数回答あり)

市民審査員 検討委員

【改善策について】(複数回答あり)		市民審査員	検討委員
改善すべき点	事業の実施内容について見直しが必要(サービスそのもののあり方等)	6	3
	事業規模について見直しが必要(サービスの水準や対象者等)	5	3
	関連事業とのあり方について見直しが必要(統合や再編を含めたあり方等)	6	2
	サービス受給者の負担(受益者負担)について見直しが必要	1	0
	市以外からの財源の確保について見直しが必要	1	0
	担い手のあり方について見直しが必要	3	0
	その他	0	1

【具体的な改善策提案】※【今後の方向性】で選択した《事業の方向性—公金投入の方向性》ごとに記載

《拡充—現状維持》

- ・意見交換にて出た指摘どおり
- ・図書館や学校と関係をもっと密にして頂きたい。
- ・私は本が好きではありませんでした。でも今になると必需品の中に本があります。私の弟は小学生ですがいつもたくさんの本を読んでいます。本の魅力を伝えられるように、がんばっていただきたいと思います。また、今の子は塾等で時間がないと言われていて、その点も頭に入れながら考えていただきたいです。
- ・図書貸出者総数の増加が必要。
- ・読書習慣を有する小中学生の読書時間のみが増加し、それ以外の子供は横ばいという状況にならないよう施策を講じて頂きたい。
- ・学校図書館の数値目標が読書習慣だけでよいのか? 「考える力」「書く力」「発表する力」等の評価軸も検討してほしい。
- ・図書館サポーターのボランティア性格を強くすること、教員の有効活用。
- ・事業費の低減

《拡充—拡大》

- ・保護者もまきこんだとりくみ
- ・サポーター同士、図書館職員もまじえた研修・・・ケーススタディー、ベストプラクティスの共有・・・の充実
- ・研究校を増やす
- ・図書に係る諸事業の連携
- ・サポーターさんのバランス、研究校の検討
- ・図書という枠で考えると学校というくくりで取り組むのではなく幼児～高校まで一貫して取り組める組織がよいのではないかと。習慣化には家庭でのサポートが必須となるので、PTA と協力してより保護者への教育にも力を入れてみてはいかがでしょうか
- ・現場教諭との連携を、司書教諭の学内地位確立を
- ・上記(事業実施内容・事業規模の見直しが必要)にチェックしたが、積極的な意味での事業展開としての改善を求める
- ・実施内容であるが「サポーター制度」の回数増加、「研究校」の増加が必要であると感じる。
- ・事業自体、内容の検証をきめ細やかに行っているように思われた。
- ・市立図書館と図書館サポーターとの連携についてさらに工夫の余地があるように思う。

《縮小—縮小》

- ・生徒だけで無し、親と学校が密になって連絡し、向上する事
- ・本来の目的をみつめなおし、電子書籍の活用も含め、内容、評価の全ての見直しが必要と考える

【自由記入欄】

- ・良い結果ばかりを例としてあげていらっしまったので、改善例など そういう事例も見てみたかったです。
小さい頃から読書する習慣は大切なことだと思うので、このままより良い方向に事業を拡大してほしいです。
- ・地域協働型教育を進める堺市として、他の事業との連携として堺市放課後児童対策事業との連携も模索してほしい。堺市放課後児童対策事業としての成果・効果をあげることもなる。
- ・治安の問題もあるので、開放された学校にはなりにくい事もあるだろうが、学校図書館を媒介として少しでも地域に開放された学校化を期待したい。
- ・学習指導要領の改革(総合学習の廃止等)により、地域人材の登用がむつかしくなっている。その対応策としても、地域ボランティア人材の発掘・育成・参画をこの事業を活用して成果を上げるようなプログラムを学校図書館サポーターがマネジメントできるようなスキルアップを図ってほしい。
- ・教員採用時から司書教諭資格をチェックすべき
- ・無償ボランティアの活動・活用を
- ・社会教育課との連携を Long Life Education として